



令和8年度 (2026年度)

しがの農林水産業



Mother
Lake

滋賀県

はじめに

滋賀県では、古くから琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境と調和した農林水産業が営まれ、魅力ある産品が生産されるとともに、国土の保全、水源の涵養、良好な景観の形成、地域文化の継承などの多面的な役割も果たしてきました。

一方で、世界に目を向けると、世界人口・食料需要は増加しているなか、気候変動による異常気象の頻発化や地政学的リスクの高まりにより、世界の食料生産・供給は不安定化しています。

さらに、近年の国内においては、人口および生産者の減少・高齢化が著しく進展するとともに、全国的な物価高騰や米をはじめとした農産物の需給バランスの大きな変化等により、食料の生産・供給に対する関心や、供給量・価格に対する危機感の高い状況が続いています。

このことを受けて、国は令和6年5月に「食料・農業・農村基本法」を改訂するとともに、令和7年4月に「食料・農業・農村基本計画」を策定し、食料安全保障の確保をはじめとした持続可能な農業・食品産業への転換を促進することとされました。

このように本県農業・水産業を取り巻く環境の変化に対応し、将来にわたり持続的で発展性のある農林水産業の振興を図ることを目的として、新たに「滋賀県農業・水産業基本計画（第3期）」を策定するとともに、「琵琶湖森林づくり基本計画（第2期）」の中間改訂を行ったところです。

この冊子では、新たに策定等した本県農林水産業の計画概要とともに、本県農林水産業の現状や特徴を紹介しています。多くの方に本県農林水産業を理解していただき、ご活用いただければ幸いです。

目次

01 概要 滋賀県 農業 畜産業 水産業 森林・林業

農業・水産業

07 滋賀県農業・水産業基本計画

08 人 担い手、支え手、ファンの拡大

13 経済 食の礎を担う力強い農業・水産業

21 トピック

22 社会 多様な人で賑わい、心やすらぐ農山漁村

26 環境 琵琶湖をはじめとした豊かな自然環境と調和した農業・水産業

31 トピック 気候変動への緩和策と適応策

森林・林業

32 琵琶湖森林づくり基本計画

35 トピック 森林・林業の最近の動き

36 世界農業遺産

37 研究・普及

39 統計表

近江米



近江牛



湖魚



近江の野菜



消費者へ
～魅力発信～



近江の茶



果樹



森林



花き

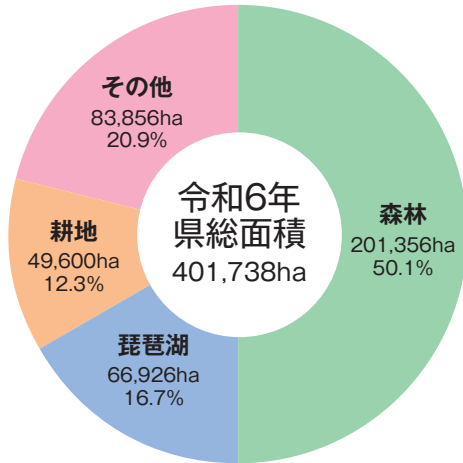


滋賀県

滋賀県は、日本のほぼ中心に位置し、琵琶湖をはじめ豊かな自然に恵まれています。

滋賀県の中央には、わが国最大の湖である琵琶湖があり、県土の総面積の約6分の1を占めています。周囲を伊吹、鈴鹿、比叡、比良などの山々が取り囲んでおり、大小約460本の河川が琵琶湖に注いでいます。

■ 県土の面積と構成

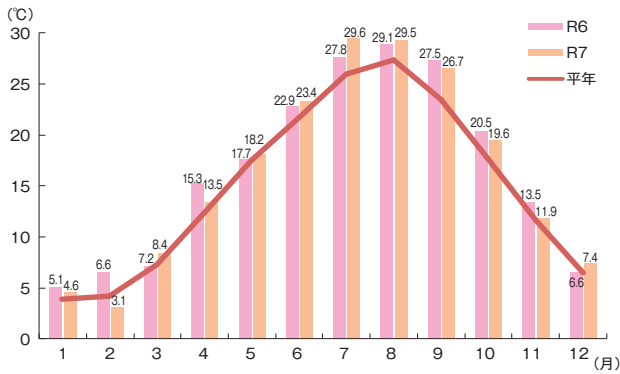


(農林水産省「耕地面積調査」)
(国土交通省「都道府県市区町村別面積調」)
(滋賀県琵琶湖環境部「滋賀県森林・林業統計要覧」)

■ 地勢図

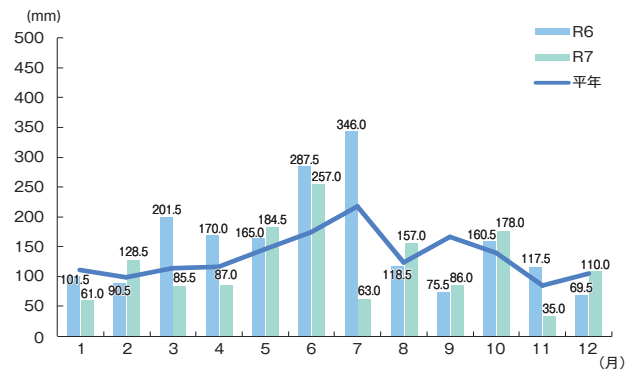


■ 月別平均気温の推移 (彦根)



(彦根地方気象台「滋賀県の気象月報」)

■ 月別降水量の推移 (彦根)



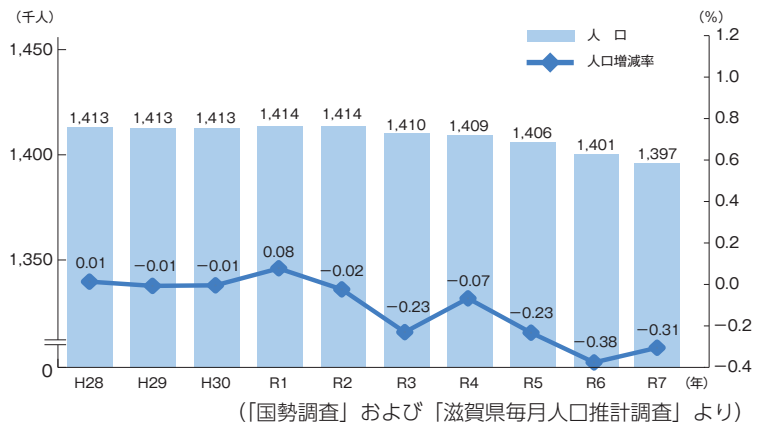
(彦根地方気象台「滋賀県の気象月報」)

気温は、平野部が高く山間部が低くなっており、年間の平均降水量は1,610mm程度（気象庁平年値（彦根））です。北部は、冬季の降雪量が多く、日本海型の気候になっています。

■ 滋賀県の人口と人口増減率

令和7年（2025年）10月1日現在の県の推計人口は、1,396,532人です。

※グラフは、毎年10月1日現在の人口と人口増減率



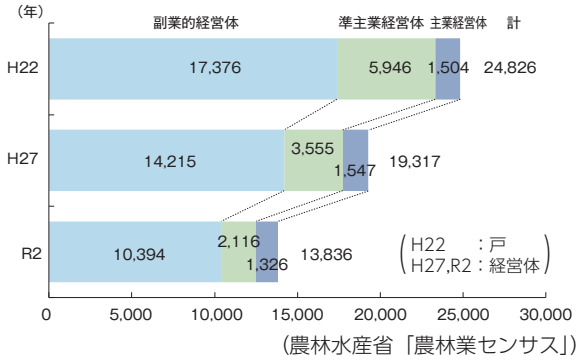
(「国勢調査」および「滋賀県毎月人口推計調査」より)

農業

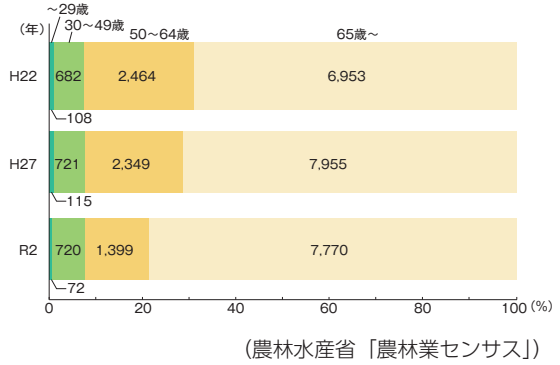
豊かな自然の恵みを受けて、近江米をはじめ多彩な農産物が生産されています。

個人経営体数・農業従事者数

主副業別経営体数の推移



基幹的農業従事者数の年齢別構成



主業経営体* 農業所得が主で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいいます。

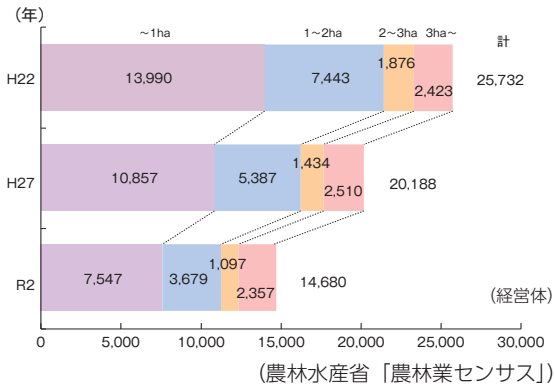
準主業経営体* 農外所得が主で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいいます。

副業的経営体* 調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体をいいます。

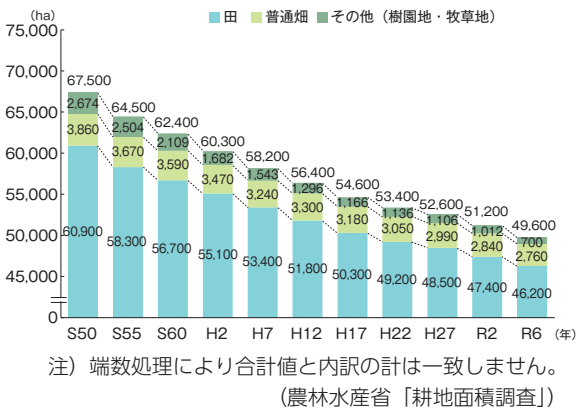
※2020年農林業センサスより上記名称に変更されました。

基幹的農業従事者数
15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいいます。

経営耕地面積規模別経営体数の推移

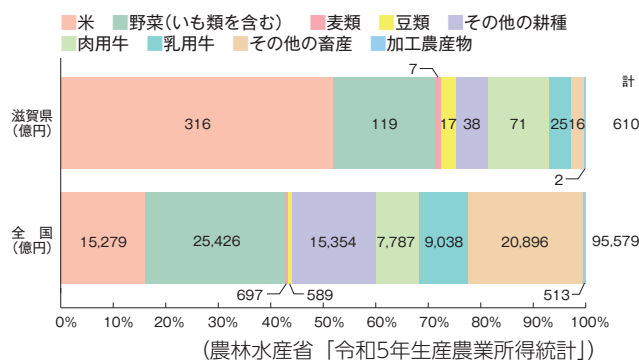


耕地面積の推移

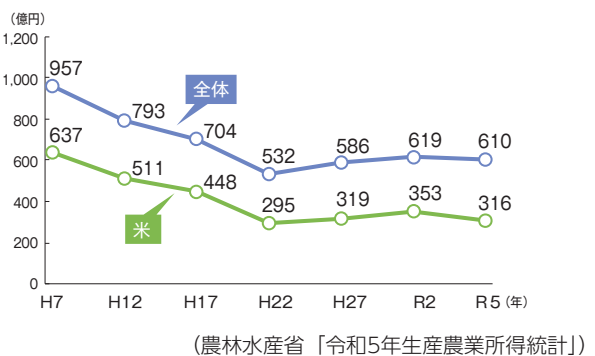


農業産出額

令和5年農業産出額の品目別構成



農業産出額の推移

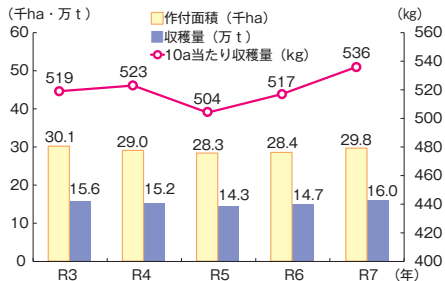


米

滋賀県の地形や気候が稲作に適していることから、水田で米を中心とした農業生産が行われています。

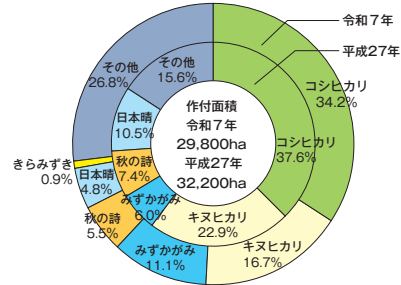
「みずかがみ」「秋の詩(うた)」「きらみずき」「滋賀羽二重糯(もち)」などの県育成品種や、「コシヒカリ」「キヌヒカリ」などが農薬や化学肥料を少なくするなどして琵琶湖の環境に配慮しながら栽培されています。

■水稲の作付面積と収穫量



(農林水産省「農林水産統計」)

■水稲主要品種の作付面積構成比



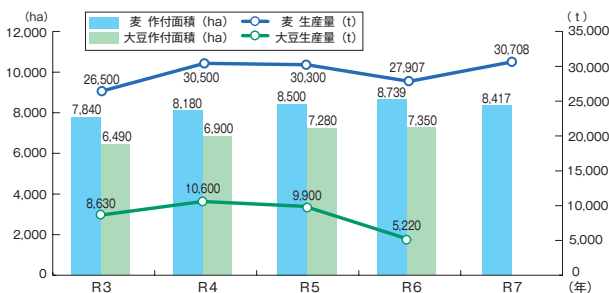
(農林水産省、滋賀県みらいの農業振興課)

麦・大豆

麦は、水稲に次ぐ中心的な作物で、団地化により高品質で安定的な生産が進められています。

また、大豆は国産の需要が高く、滋賀県では、多くが麦のあとに作付けされています。

■麦・大豆の生産状況

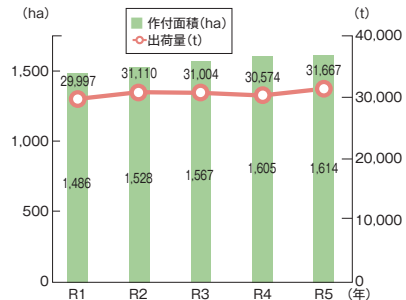


※令和7年大豆の統計については集計中です。(農林水産省「農林水産統計」)

野菜

露地ではキャベツ、はくさい、かぶ類等、施設ではトマト、いちご、きゅうり、みずな等が栽培され、生産面積が年々増加しています。果菜類では少量土壌培地耕による栽培が普及しています。

■野菜の生産状況

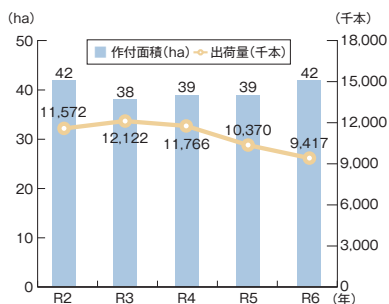


(滋賀県みらいの農業振興課)

花き

施設ではばら、輪ぎく、洋ラン等、露地では小ぎく等が栽培されており、近年はユーカリ等の枝物類やりんどうの生産も増加しています。

■花きの生産状況

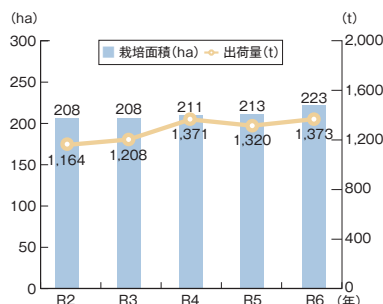


(滋賀県みらいの農業振興課)

果樹

なしやぶどう等を中心に、直売や観光園、市場出荷等、産地ごとに特色ある経営が行われており、栽培面積も年々増加しています。

■果樹の生産状況

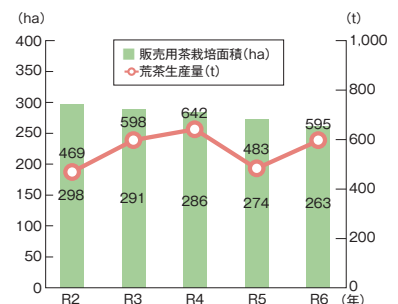


(滋賀県みらいの農業振興課)

茶

甲賀市を中心に生産される「近江の茶」は、高品質なお茶として、高く評価されています。

■茶の生産状況



(滋賀県みらいの農業振興課)

畜産業

近江牛の生産をはじめ、高品質で安全な畜産物が生産されています。

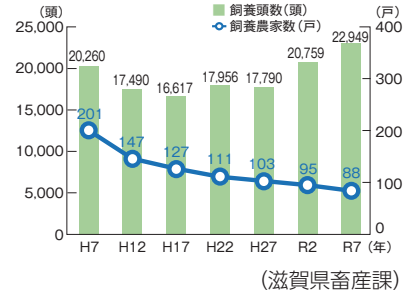
肉用牛

歴史的に肥育経営を中心に発展してきましたが、近年は滋賀県生まれ・滋賀県育ちの近江牛を生産する繁殖肥育一貫経営の取組も進んでいます。大規模化が進み、1戸あたりの飼養頭数は全国トップクラスとなっています。

近江牛は、日本三大和牛の一つとも言われ、高級ブランド牛肉として、国内外に広く流通しています。



■肉用牛の飼養状況

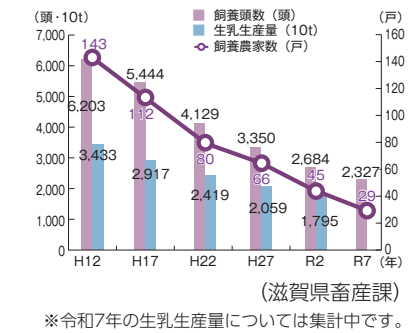


乳用牛

大消費地である京阪神の都市近郊型の生乳生産地域として、新鮮で良質な生乳が生産されています。



■乳用牛の飼養・生産状況



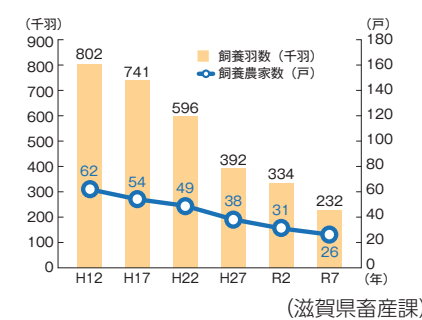
養鶏

生産された鶏卵・鶏肉は、県内を中心に消費されています。

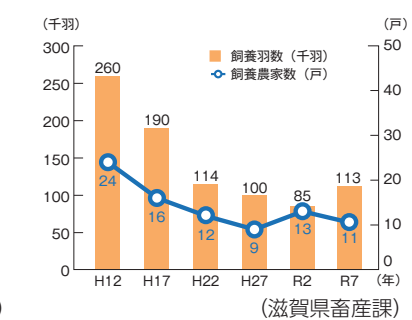
また、本県特産地鶏「近江しゃも」も好評を博しています。



■採卵鶏の飼養状況



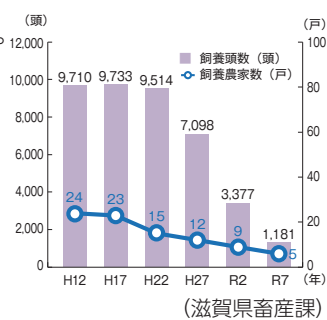
■肉用鶏の飼養状況



養豚

高品質で安全・安心な肉豚が生産されています。

■豚の飼養状況

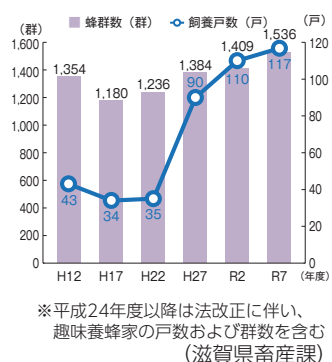


養蜂

セイヨウミツバチを中心に、蜂蜜の生産のほか、園芸作物の受粉交配用に県内全域で飼育されています。



■蜜蜂の飼養状況



水産業

滋賀県の漁業は、琵琶湖を中心に営まれ、固有魚介類の漁獲と独特の漁法で知られています。

琵琶湖漁業の特徴

琵琶湖には固有種を含め100種を超える魚類と貝類が生息しており、琵琶湖漁業はこれら豊かな水産資源に支えられて発展してきました。

独特の漁法を用いて発展し、現代に受け継がれてきた伝統的な琵琶湖漁業は、世界農業遺産「琵琶湖システム」の中心的な営みにも挙げられています。現在でも、四季折々の漁業が営まれ、季節の風物詩となっています。



小型定置網（エリ）
矢印形に網を張り、回遊する魚をつぼと呼ばれる部分に誘導して獲る漁法です。



アユ沖すくい網
琵琶湖沖の湖面で、マキと呼ばれる群を作っているアユをすくい獲る漁法です。



沖びき網
船をいかりで固定して、網を引き寄せて魚を獲る底引き網の一種です。



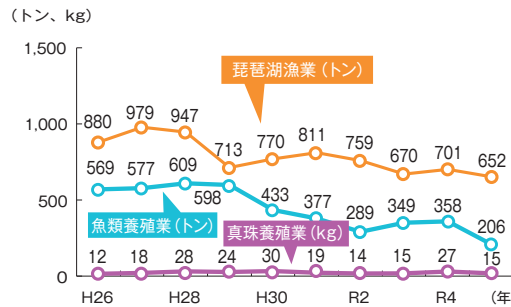
追いさで網
カラスの羽根をつけた竿で、岸付近にいるアユの群をさで網の中へ追い込んで獲る漁法です。

漁業生産の推移

琵琶湖漁業の漁獲量は、昭和30年頃には10,000トン前後ありましたが、魚介類の産卵繁殖環境の悪化や外来魚の繁殖などにより、近年は1,000トンを下回る状況が続いています。

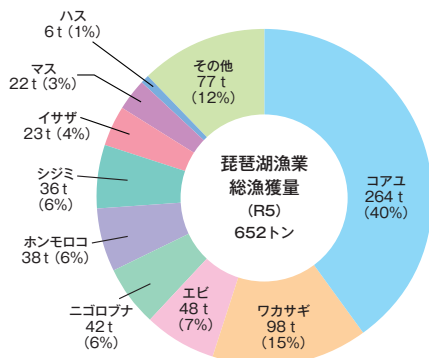
令和4年は701トン（外来魚を除く）でしたが、令和5年はアユが不漁となり、前年を47トン下回る過去最低量の652トン（外来魚を除く）になりました。

漁獲量・生産量の推移



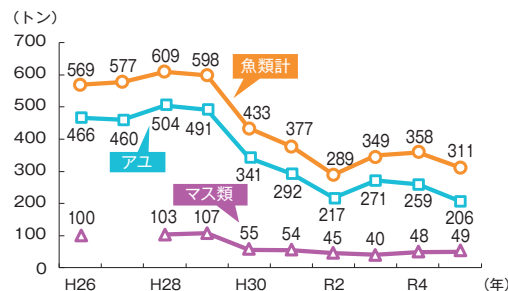
（農林水産省「漁業・養殖業生産統計」より作成。外来魚を除く）

令和5年魚介類別漁獲量（琵琶湖漁業）



注）端数処理により合計値と内訳の計は一致しません。
（農林水産省「漁業・養殖業生産統計」より作成。外来魚を除く）

魚類養殖（食用）生産量の推移



（農林水産省「漁業・養殖業生産統計」より作成。外来魚を除く）

森林・林業

森林資源の循環利用とともに琵琶湖と人々の暮らしを支える森林づくりを進めています。

森林のすがた

森林は、木材等の林産物の供給だけでなく、水源の涵養、県土の保全、自然環境の保全、地球温暖化の防止等、私たちの暮らしに関わる多面的な機能を有しています。森林資源の循環利用を促進しながら、健全で多様な森林づくりを進めます。

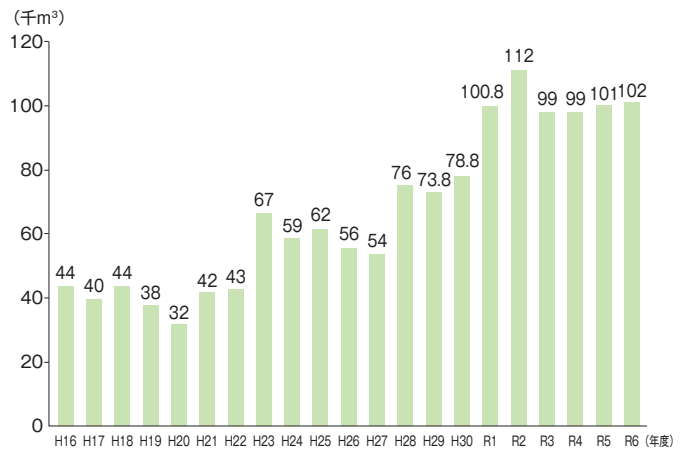


■森林の分布状況



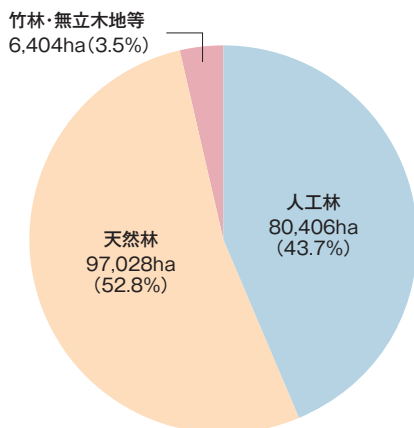
(第6, 7回自然環境保全基礎調査データ、滋賀県森林GISデータより作成)

■素材生産量



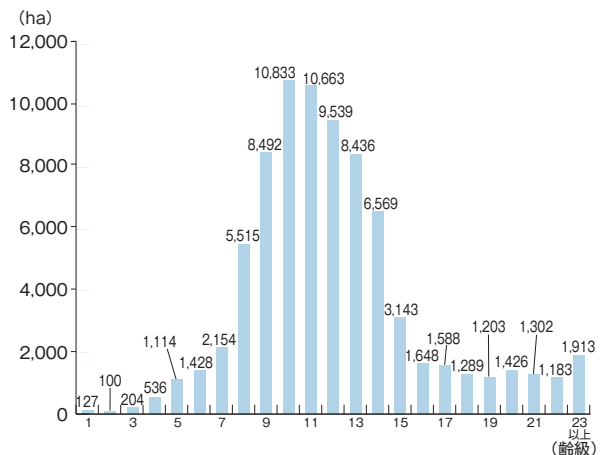
※ 平成28年度までは農林水産省公表の木材統計の数値
平成29年度以降は、県独自調査の数値

■林種別民有林面積



(滋賀県琵琶湖環境部「滋賀県森林・林業統計要覧」)

■人工林の齢級別面積



※ 齢級：森林の林齢を5か年でひとくくりにしたもの。
例えば、林齢1～5年生までは1齢級、6～10年生までは2齢級となります。

(滋賀県琵琶湖環境部「滋賀県森林・林業統計要覧」)